

社会の「今」と「これから」、 私たちの生き方・働き方

ICTの発展や少子高齢化、グローバル化などにより社会が大きく変わる中、生徒たちはこれからのような生き方・働き方を選択していくことになるのだろうか。次代を創る2人の若手社会人の話から、自らの進路を切り開くために必要な力を考える。

常識から自由になるために
仲間と語り、考え続ける



株式会社力ネカ
食品事業部 販売促進第二グループ 中原実香さん
販促企画チーム

これまでの常識にとらわれず
新しい価値を追求する

現在、油脂やイーストなどの加工食品用原料を扱う事業部に所属しています。これまで、営業や商品企画、マーケティングなどを担当してきました。高校時代に家業を手伝ったことが経営学への興味につながり、大学では企業への商品開発提案にも取り組みました。そして、就職先を考

える中で、人の暮らしを技術で豊かにする会社に関心を持つようになり、株式会社力ネカに入社しました。

入社して10年が経ちますが、海外拠点が増えるなど、仕事の面でもグローバル化を感じます。しかし、より大きな変化だと感じるのは、競争が激しく変化の多い社会の中での、新しい価値を創出する必要性です。私の事業部ではマーガリンやイーストを扱うのですが、お客様に新しい

価値を提供するためには、時には現在のマーガリンやイーストの枠を超えた発想の製品提案が必要になってくると思います。自分たちの常識にとらわれずに、より広い視野を持つて考える必要性が高まっています。

実際、上司はよく「長期の目標と短期の目標をしっかりと区別した上で、それらを融合させながら仕事をしなさい」と言います。競争も変化も激しいグローバル社会で会社が存在し続けるためには、主力製品を守り続けることだけに注力するのではなく、時には本業から逸脱することも恐れずに、自由な発想でビジネスを考えることが大切だと思います。

これまでの常識にとらわれないためには、市場の動向をつぶさに見る

ことはもちろん、社内の様々な部署の人たちと対話を重ねることが重要です。まして、人々の嗜好が多様化している今、営業部門、技術部門、マーケティング部門などがそれぞれの知見を持ち寄り、新しい価値をつくるために協力していくことがますます重要になっていくと感じます。

20代半ばの頃、営業を担当していた、取引先とのトラブルが続いたことがありました。結果的には、迷惑をかけた取引先ともそれまで以上のよりよいパートナーシップを築くことができましたが、それは技術部門など他部署の社員も総出となって、先方の想定を上回るくらい真摯に、反省の気持ちと具体的な改善策を伝えることができたからだと思っています。



なかはら・みか◎神戸大学経営学部卒業。2006年、株式会社カネカ入社。マーケティングや営業などを担当。12年に出産・育児休業を取得。復帰後、現在のチームに所属。

ます。「相手のことを理解したい」「一緒に考えたい」という思いに社内のメンバーが応えてくれ、そしてその様子を見た取引先の方たちにも理解を示してもらえたのです。

お客様にはお客様の、他部署には他部署の考えがあります。いつも私と意見や思いが一致するとは限りません。それでも、相手を理解したいという気持ちを持って接することで、相手も私のことを理解してくれるようになり、一緒によりよい改善策を見つめようという動きにつながっていきます。お互いを尊重し、対話を重ねる中でこそ、自分たちの常識を

超えられる瞬間が生まれます。そして、それが会社を、そして社会をもよりよくしていく一歩になるのだと思います。また、「私はこの会社で、こんな風に社会に貢献している」という自信にもつながるはずですよ。

社会人、家庭人として 疑問を投げかけ続ける

仕事と育児の両立が始まり、3年目になります。元々、子どもが生まれても仕事は続けるつもりでしたが、実際は想像以上に大変なことばかりでした。子育てや家事の時間が格段に増えたため、仕事に充てられる時

間や同僚とのコミュニケーションの機会は一気に減り、社会人としてこれまで積み上げてきた自分のあり方が一変したことに戸惑いました。

社会人であり、家庭人でもある新しい自分を模索する中で気づいたのは、自分が狭い価値観の中の「母親像」にしばられていたということでした。仕事と子育ての両立のためには、時には何かを捨てたり、後回しにしたりすることも必要なのに、私にはそれができていませんでした。また、家族や同僚に頼ることを「甘えだ」と思う自分もいました。今は、家事に対しては「ここまでやればよい」と割り切る代わりに、毎日この時間は子どもとの時間にすると決めるなど、優先順位をつけられるようになりましたが、価値観を変えるのは簡単ではありませんでした。仕事や家事に追われ、このままでは倒れてしまうかも……とぎりぎりまで追い詰められて、やっとそれまでの自分の価値観を崩し、発想の転換をすることができました。

女性の社会進出は、日本ではまだ

道半ばです。身近なロールモデルも多くはありません。だからこそ、私たちは「社会人」「母親」の古いモデルにとらわれないよう、周囲の人と話し合いながら、あるべき姿を考えることが必要ではないでしょうか。今も、同僚の女性社員に家庭と仕事の両立について話を聞き、私らしいあり方を考え続けています。

ビジネスも、家庭と仕事の両立も、正解は1つではありません。だからこそ「本当にそうなのか、そうでなければならぬのか」と、自分や周囲に問いかけ、ともに考え続けられる人でありたいと思っています。

私が考える

これからの高校生に求められること

高校時代に自分の枠を超えたり、常識を見直したりする経験をするよと思います。私の場合は、短期留学が自分の常識を問い直す初めての経験になりました。自分の枠を超えることで、自分とは何かを考えることができますし、自分を形づくっている軸、コアの部分に気づくことができるのではないのでしょうか。